

# 英語科研究部会

## I 研究テーマ

「伝えることを意識した表現力の育成」

中学校 Multi Plus 教材を意識した表現力の育成

小学校 新教材 Hi Friends! を活用した授業の工夫

## II 研究テーマ設定の理由

甲府支部では上記テーマでの研究を8年間続けてきており、昨年度は主に writing 活動に焦点をあて表現力の育成に取り組んできた。その上にたち、今年度は4技能をバランスよく身につけられるような研究の視点を持ち、このテーマでの最終年としていくことを確認した。

さて、本研究における『表現力』は“目的や場面、相手を意識する中で、自分の気持ち考えを相手に伝えようとする力”と捉えた。この表現力の育成のためには、「聞くこと」「読むこと」のインプット活動を充実させ、その内容についてじっくり考えることを土台として「話すこと」「書くこと」を通じ、自分の考えとして他者に伝えることができるような活動を意識して指導にあたるのが大切である。そのために、単元の指導内容について再考するとともに4技能の繋がりを意識し、それらを相互に活用できるようにすることが必要である。Multi Plus を使った研究は、その意味においても効果的であると言える。

一方、伝える目的や場面、相手によって表現は変わる。クラス全員へ伝えるのか、F E Tへ伝えたいのかで伝え方が異なってくる。こうした意識も持たせる指導を念頭におくこととする。

さらに、年間2-3ヶのMulti Plusの繋がりと3学年の繋がりの系統性も意識した研究としていくために、一覧表を作成する。

## III 研究の経過と内容

### 1 研究経過

	日付	会場	内容（小学校部会）	内容（中学校部会）
第1回	4/11（木）	北中	組織作り	
第2回	5/14（火）	南中	第48次春季全体集会	今年度の研究について
第3回	6/18（火）	北中	小学校部会研究	各学年研究
第4回	7/31（水）		第48次夏季全体集会	部会研究
第5回	8/16（金）	北中	講演会「4技能の統合的活用—Multi Plusの役割」 講師:関典明先生(成城学園中高・成城大・日本教育大学院)	
第6回	9/3（火）	北中	小学校部会研究	各学年研究
第7回	10/1（火）	南西中	授業研究会	New Horizon 2:Unit4 Homestay in the U.S.

			授業者:小田切久美教諭, 指導助言者:田中武男先生 (山梨大学)
第8回	11/5 (火)	北中	県教研還流報告
第9回	1/21 (火)	北中	研究のまとめ、来年度方向性検討

## 2 研究内容

- ・教科書の Multi Plus (Writing plus) の指導のあり方←複数単元を総合的・統合的に活用する言語活動としての Plus を意識して指導)
- ・Multi Plus に至るまでの各単元における日常実践 (Multi Plus を意識した実践)
- ・各単元の中での、small talk Q-A 本文への考えなどの言語活動、および4技能の関連を意識した日常実践を報告し、切磋琢磨していく。
- ・小学校部会では、実践や資料等を出しあいより効果的な授業づくりをする。
- ・講演を夏季休業中に要請し、意識を深めて日常実践に生かしていく。
- ・小中の繋がり：互いの研究を共有する一方、授業参観や学習会の機会を作り相互理解しあい連携を図る。

## IV 研究の反省と課題

1 年部会では、いわば小ゴール Multi Plus へ向かう日常的積み重ねの実践、および Multi Plus の実践を出し合うことで、共通理解と共有をすることができた。Multi Plus の指導成果をあげるためには、普段のプロセスの中で統合を意識した実践が必要であることが再認識された。

2 学年部会では、Multi の系統性を意識し、日記→夏休み→学校紹介へと表現力のステップアップを図った。南西中の公開授業では、4人グループでのR-W活動が印象的な試みとして一石を投じた。

3 学年部会も同様、単元の中で段階的、計画的なプロセスを踏むことで、Multi Plus に無理なく繋げることができた。特に writing を日常化する必要性を認識すると同時に、書かれたものに対するフィードバックのあり方も検討された。

小学校部会では、昨年度に引き続き Hi, Friends! を使った授業実践報告を通し、より効果的な授業づくりへの議論がされた。児童を引きつける教材とは何か、TPR を用いた指導の効果等、日々の実践に生かせる討議がなされた。

一方、夏休みに東京から関先生を招聘し、4技能の統合と Multi Plus の扱い方についてアドバイスを頂いた。Multi Plus では、その前後の Unit と他の Plus の技能を統合的に指導することが重要であり、日常の指導の点検ともとれること、また Multi Plus を通して、読み手と聞き手を意識した的確な表現を推敲・見直し、良質な疑似体験をさせることで判断力、思考力を養うことも確認された。教科書著者の意図した Multi Plus と本研究の考えが一致していることを確認できた。また、小学校の外国語活動と中学校の英語学習の互いのねらい指導例を教えていただき、連携・共有することの大切さを再認識した。